

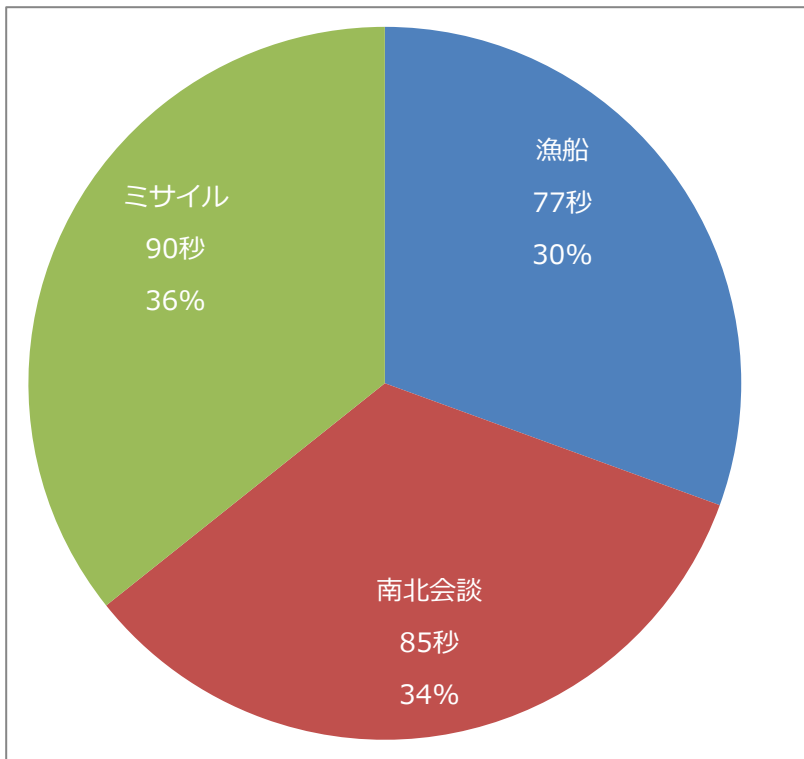
【特別公開版】報道検証 報告書

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年1月16日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
検証テーマ：北朝鮮問題、イギリスのホームレス、ICAN、希望の党と民進党、部活動改革		
報道トピック一覧		
<ul style="list-style-type: none">・アメリカ、13人の実子を自宅で監禁・訪日外国人客数、過去最高更新 韓国からの旅行客が急増・北朝鮮の問題 木造船の漂着 南北関係 ミサイル問題・抗 NMDA 受容体脳炎・【セカイは今】イギリス、四ヶ月後にヘンリー王子とアメリカの女優メラン・マークルの結婚式・徳島県松茂町で空港付近の工場で炎上・ICAN 事務局長が国会議員と討論・禁止薬物混入のカヌー選手、刑事処分へ・希望の党と民進党の統一会派問題・座間市九人遺体事件、白石容疑者。5回目の逮捕・スポーツ報道・天気予報・部活動改革・【速報】NY ダウ初の2万6000ドル台		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨		
<ul style="list-style-type: none">・北朝鮮問題 今回の番組では北朝鮮をめぐる漁船問題、南北会談、ミサイル問題についてのティラーソン国務長官提唱の国際会議が取り上げられた。 漁船問題については金沢市の海岸で見つかった一隻の木造船について男性七人の遺体に加えハングルが書かれた煙草の箱や金日成主席の肖像が描かれたバッジも見つかったことから北朝鮮籍の船の可能性が高いと見られていること、今年に入っても北朝鮮のものとみられる船の漂着は相次いでいて今日までに9件が確認されていることが報じられた。 南北会談については北朝鮮からサムジョン管弦楽団140人で構成された芸術団の韓国への派遣が決まったことが報じられるとともに、北朝鮮情勢に詳しいジャーナリスト平井久志氏の「金正恩委員長に対する非常に、まあ、直接的な賞賛のような歌詞が出てこない、そういう一つ、なんというかオブラートに包んだような講演、南		

北和解ムードというのを演出して、韓国の世論というのをまあ反北朝鮮から親北朝鮮に変えたいという意図はあるわけですから。」という見立てが紹介された。

ミサイル問題に関する国際会議については今日カナダとの外相会談に臨んだ河野外務大臣は核ミサイル開発を続ける北朝鮮への圧力維持を強調したこと、明日も北朝鮮問題を話し合う関係国会合が開かれること、今回の国際会議の提唱者はアメリカのティラーソン国務長官とのこと、また NHK でミサイル発射と J アラートについて誤報およびその五分後に「速報は誤りでした。J アラートは出ていません」訂正があり、午後七時の NHK の全国ニュースの中でも訂正と謝罪があったことが報じられた。また、スタジオでは星キャスター「そうですね、対話路線でトランプ大統領とは溝のあるティラーソンさんの提唱ってということ、それから中国とロシアが加わっていませんのでね、今回の懷疑果たしてどこまで実効性があるのかなと言う声は出てるんですけども、せっかく 20 カ国の代表が集まっていますからね、まああの、北朝鮮の問題は単にこの地域の問題ではなくて国際社会全体の問題だ、ということ河野大臣もアピールしてもらいたいですね。」とコメントしていた。

このトピックに当てられた時間は 274 秒で、それぞれの論点についての時間配分および比率は以下の通りである。



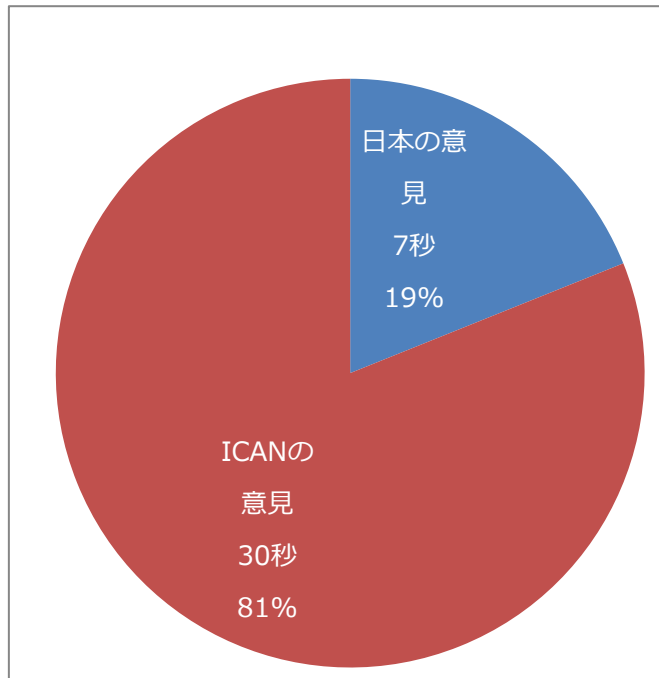
今回の放送では、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・ ICAN

ノーベル平和賞を受賞した国際団体 ICAN のベアトリス・フィン事務局長が今日午後に日本の国会議員らと討論を行ったこと、フィン事務局長が「日本が核兵器の使用や保有などを禁止する、核兵器禁止条約に参加していないことについて、安全保障を核に依存することは恥ずかしいと述べ唯一の被爆国日本こそ参加すべき」と述べたことが報じられた。また、フィン事務局長の「核兵器を持っていても平和や安定は生まれない。」というコメントが紹介された。スタジオでは星キャスターが「はい、核軍縮の進め方を巡って日本政府と ICAN とでは溝があ

るんですね、隔たりがあるんです。日本政府は核保有国アメリカなどを含めた核保有国を含めて大きな枠組みを作るべきだ、と言っているんですけど、ICANの方はまず非核保有国が条約を結んで核保有国にプレッシャーをかけよう、ということなんですね。まあ、こういう立場の違いがあるからこそ、本当は日本政府がきちんとICANと話をする必要があると思うんですね、今回、安倍総理はICANの代表の人との面会を断ったということなんですね。政府関係者によると話し合いをしてもどうせ平行線だということなんですけども、まあ非常に大事なチャンス逃した、という気がしますね。」とコメントしていた。

このトピックに当てられた時間は79秒で、日本政府の意見とICANの意見を紹介するシーンの時間配分及び比率は以下の通りである。



ややICANの意見に偏った報道と言えるが、元々の時間が少なかったこともありこの時間配分それ自体は放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」に照らし合わせると望ましいものとはいえないもの、直ちに問題があるとは言えないと考えられる。外務省のホームページの記述によると、総理は1月12日から1月17日にかけて、エストニア、ラトビア、リトアニア、ブルガリア、セルビア、ルーマニアといった欧州を訪問し、各国の首脳との会談などを行っていたとあるが、星キャスターのコメントでは安倍総理がICANの代表との面会を断った理由について、外交日程のことには全く触れられておらず、政府関係者からの伝聞のみをコメントしている。

これは放送法第四条一項三号の「報道は事実をまげないですること」に抵触し、匿名の政府関係者による伝聞情報を取り上げる一方で外務省の公式情報を無視黙殺しているという点で同項二号の「政治的に公平であること」に照らし合わせても問題のある発言であるといえる。

・希望の党と民進党

民進党と希望の党の国会での統一会派結成をめぐり野田前総理ら、去年の衆議院選挙で希望の党に排除された議員らが今夜対応を協議したこと。明日開かれる民進党の両院議員総会で統一会派問題の結論を出すことには反対する方針で一致をしたこと、対して民進党執行部は明日には党内の了承を取り付けたい考えであるということ

が報じられた。このトピックに当てられた時間は 38 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・部活動改革

学校の部活動改革について、週二日の休養日を設けるようスポーツ庁が公表したこと、部活動を巡っては教員の長時間労働の原因となっていることから 1 週間の内休養日を平日 1 日と週末 1 日と併せて 2 日以上設けることなどガイドラインの骨子案に盛り込んでいること、部活動の時間については長くても平日は 1 日二時間程度、週末や学校が休みの日は三時間程度としていることが報じられた。このトピックに当てられた時間は 36 秒で、今回は放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。しかし、このトピックが働き方改革などと結び付くと賛否の分かれるテーマになると考えられる。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・ICAN

星キャスターのコメントは一般の視聴者に対して、欧州訪問の外交日程が入っていたこともあり ICAN 代表の人との面会を断ったにも関わらず、「話し合いをしてもどうせ平行線」という理由で「今回、安倍総理は ICAN の代表の人との面会を断った」という印象をあたえるおそれがあると考えられる。

検証者所感

・ICAN

星キャスターのコメントにある「非常に大事なチャンスを逃した」という意味がよく分からない。本当に今回の会談が日本・ICAN 双方にとって「非常に大事なチャンス」であるならば、ICAN の側も総理の外交日程を把握した上で、面会日の打診など調整をしていたのではないだろうか。そのあたりの根回しが不十分であったということは ICAN 側にとってはそこまで大事なチャンスではなかったのではなかろうか。